

# 全キャンパス共通の方針・課題整理項目

立命館憲章や学園ビジョンR2020で示すアカデミックプランなどの実現に向けて、キャンパス空間の調和を図りながら目指そうとする立命館のあるべき姿を実現していくために全キャンパス共通の空間コンセプトに沿って、次の表に示すようなツリー構造にしたがい、より詳細な整備方針との関係性を検討しながら進める必要がある。

【キャンパスプラン実現のための条件整理】

前提/アカデミックプランとその方針	
立命館憲章	
<学園ビジョン>	Creating a Future Beyond Borders 自分を超越る、未来をつくる。
<3つの行動指標>	多様なコミュニティにおける主体的な学びの展開 人類・自然・社会に貢献する立命館らしい研究大学への挑戦 学ぶことの喜びを実現できる学園づくり
<5つの基本目標>	国際社会と地域に貢献する開かれた学園へ 学びのコミュニティと学習者中心の教育を 特色あふれる「グローバル研究大学」へ 教育力・研究の質を向上する環境の維持を 教育・研究機関としての立命の役割 一東日本大震災をうけて一
<立命館大学の基本目標>	総合的人間力の育成を グローバル研究大学へ 教育・研究、学生生活を支えるキャンパスづくり

■空間整備のコンセプトからプロジェクトの詳細についてツリー構造的整理

空間コンセプト	基本方針	計画項目	条件整理の作業に必要なデータや情報など			
1.多様なコミュニティ形成を支える空間整備  2.優れた学生・研究者を育成する国際基準の教育・研究・文化・スポーツ環境整備  3.高いQOLを支える優れたアメニティや自然環境、エコロジー、防災への配慮  4.国内外・地域への発信・貢献の場の整備とシステムの構築  5.歴史・文化的コンテクストを踏まえたキャンパス計画  (全キャンパス共通)	全学的協力体制による学生・教職員が参画する一体的なキャンパス整備  キャンパス資源(敷地・施設等)の有効活用  教育・研究環境の再編・集約 ・学部エリア ・学部連携エリア ・全学共有エリア  緑地と連携したコミュニティスペースの再編  立命館ステイタス魅力的で充実した学生生活を支える生活施設の質の向上と再整備  都市の一部としての社会的な役割を果たす大学キャンパスの整備  継続・更新・発展する大学経営を支えるファシリティマネジメント  計画・管理・評価体制の確立  各部局が施設計画等の立案・執行の際に常に引用する手引き・指針としての位置づけ	土地利用・建物配置	ゾーニング計画 ・明快・明確な ・わかりやすい ・敷地の有効活用を図る	キャンパスの骨格 ボリュームシフト	スムーズな建替計画 南側低層化(KIC) 北側へボリューム確保(KIC) 中央部の広場化(KIC)	築年数の確認 法規制の整理 現状把握
		インフラ 基盤整備 骨格構成	交通計画 ・わかりやすい ・アクセスしやすい ・見通しもよい ・安全な ・量的確保	キャンパス内動線 キャンパス外アクセス	将来規模(面積、高さ)の設定 全学利用施設の配置状況 既存施設の有効活用・環境保全	現状把握 全学利用施設の把握
		安全・安心	安全・安心な施設計画	ユニバーサルデザイン 交通 災害・防災対策 防犯対策 施設の維持管理・老朽化対策	避難場所 非常用電力供給 浄化設備(非常用トイレ等) セキュリティ(日時時・非常時) 情報管理	現状把握(登録数・利用数) バス待合時の歩道の占有率 事故件数 警備員の業務内容 事例調査 各門の開閉
		パブリック空間整備	緑地計画	自然環境への配慮 周辺環境との連続性	電気・給排水 高効率機器の導入(エネルギー政策) 自然エネルギーの活用 非常時対応	現状把握(寿命・効率) 建替計画の影響
		全学利用施設 (パブリック)	デザインガイドラインの設定	壁面線・高さの指定 構造・形状・半屋外空間など 仕上げ・色彩・サイン計画など 緑地計画	適切な植栽計画 コミュニティ空間との関係	現状把握(寿命・効率) ※保存樹木の判断(寿命・記念樹等)含む
			コミュニティスペース (コモン、居場所) の適正配置	屋外	歴史の継承 キャンパスデザインの調和 既存緑地の保全・活用	現状把握(毎木調査) ※保存樹木の判断(寿命・記念樹等)含む
				屋内	学習 ラーニングcommons スチューデントcommons 図書館 びあら	現状把握 周辺地域からの大学施設の見え方への配慮 景観との調和
		専用スペース整備	飲食	カフェ・レストラン 大学生協	緑地空間の整備 居場所の整備 (休憩・交流・活動・飲食・喫煙)	現状把握
			正課以外の学びの拠点 課外自主活動施設	図書館・びあら・commonsなど スポーツ、健康、レクリエーション	将来規模(面積、数量)の設定 各種体育施設、サークル活動施設	現状把握・データ分析 事例調査 ターゲット層の設定・確認 運営方式・クオリティに対するニーズ・評価
			QOL(生活施設)	アメニティの向上 学生支援の充実 福利厚生施設の充実	将来規模(面積、数量)の設定 各種体育施設、サークル活動施設	現状把握(毎木調査) ※保存樹木の判断(寿命・記念樹等)含む
		学外利用者の 使用施設	計画・管理・評価体制の確立	明るく魅力的なトイレ 多様な居場所の整備 学生支援施設の計画 立ち寄りやすい空間づくり 地域開放	将来規模(面積、数量)の設定 情報共有 研究内容の公開・発信	現状把握・データ分析 学生支援施設の視認性と対応時間のニーズ ターゲット層の設定・確認 学生施設の現状把握 女子学生増加への対応
			専有スペースの見直し、配置の適正化 利用事態の把握(稼働率、利用人数対面積) セキュリティエリア (※具体的にはアクションプランの内容)	専有スペースの見直し、配置の適正化 情報共有 研究内容の公開・発信	将来規模(面積、数量)の設定 情報共有 研究内容の公開・発信	占有スペースの見直し、配置の適正化 利用事態の把握(稼働率、利用人数対面積) セキュリティエリア (※具体的にはアクションプランの内容)
			事務組織の体制	事務職員施設	地域連携 地域開放 地域貢献 国際化 国際交流、国際理解 連携の支援 (附属校・APU・他キャンパス 地域・他大学・日本・世界など)	地域プログラム 災害時対応 京都ステイタス 国際寮 学生支援(言語、生活習慣、宗教) 情報発信・交流拠点 高校生等の居場所の確保